

日本で一番質の高い“食”&“ホスピタリティ”グループへ



第64期 中間報告書

2012年1月1日 ▶ 2012年6月30日

ROYAL

ロイヤルホールディングス株式会社

証券コード●8179

ロイヤル経営基本理念

ロイヤルは食品企業である。
 お客様から代金を頂くからには、
 一、食品は美味しくなければならない。
 一、調理・製造も取扱いも衛生的でなければならない。
 一、サービス販売は、お客様の心を楽しませ、
 社会を明るくするものでなければならない。
 以上のつとめを果たす報酬として、正当な利潤を得られ、
 ロイヤルも私共も永遠に繁栄する。

1956年(昭和31年)6月制定

株主の皆様には、日頃より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

「第64期 中間報告書」をお届けするにあたり、ごあいさつ申し上げます。

当社グループが主力とする外食事業を取り巻く環境は、消費者の外食頻度に持ち直しの傾向が見られるものの、顧客確保のための企業間競争は激しさを増しており、引き続き厳しい状況にあります。

このような厳しい環境下ではありますが、平成24年度を初年度とする、新中期経営計画「Fly to 2014」におきましては、今後見込まれる経営環境の変化と外食産業の構造的課題を踏まえつつ、持続的な成長を確保しうるビジネスモデルの構築を基本目標としております。新中期経営計画における各種の経営施策を展開することにより、

「お客様の満足」を最大の目標とし、時代の変化にしなやかに対応する「日本で一番質の高い“食” & “ホスピタリティ”グループ」の実現を目指してまいります。

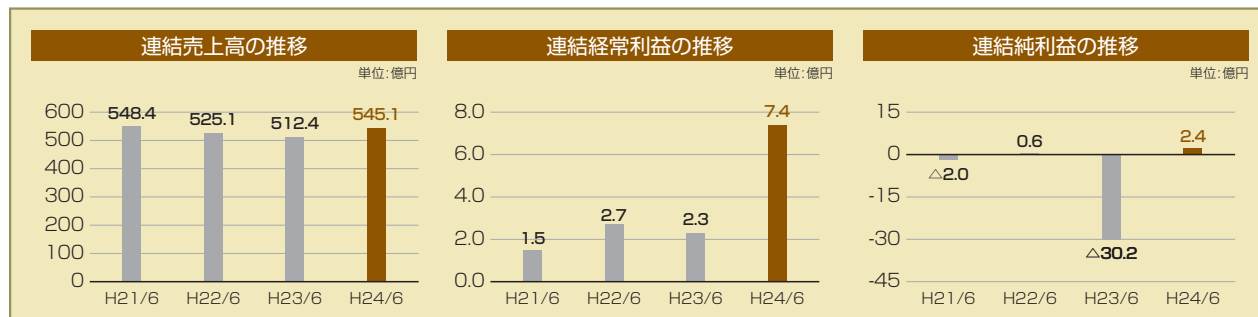
当社グループは、昨年、おかげさまで創業から60年、また、ロイヤルホスト開業から40年という節目の年を迎えました。今後もロイヤル経営基本理念の実践により、持続的な成長を図ってまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



平成24年9月
 代表取締役社長 菊地 唯夫

連結決算ハイライト(中間)



当社グループでは、今後見込まれる経営環境の変化と外食産業の構造的課題を踏まえ、昨年11月に持続的な成長を基本方針とした新中期経営計画「Fly to 2014」を策定いたしました。

その初年度にあたる当連結会計年度におきましては「基盤固め・成長戦略の浸透」をキーワードに6つの事業戦略(①「ロイヤルブランドの再構築」②「成長エンジンの育成」③「収益基盤の拡大」④「時代対応業態の開発と進化」⑤「事業開発機能の強化」⑥「M&Aの活用・海外への進出」)と2つのインフラ戦略(①「インフラの強化とグループシナジーの追求」②「効率経営体への転換」)を骨子とした各種経営施策を着実に進めております。

昨年度からの施策による効果や、上記の各種経営施策を着実に進めた結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は54,516百万円(前年同期比+6.4%)、営業利益は592百万円(前年同期比+161.5%)、経常利益は745百万円(前年同期比+211.7%)となりました。また、特別損益として受取補償金90百万円を特別利益に、店舗の改装等に伴う固定資産除売却損56百万円など総額159百万円を特別損失に計上したほか、法人税等446百万円および少数株主損失15百万円を計上しており、これらの結果、当第2四半期連結累計期間の四半期純利益は245百万円(前年同期四半期純損失3,024百万円)となりました。

● 事業別の概況

外食事業

売上高 27,189百万円

- 海外の人気ブランド「ローズベーカーリー」の国内3号店など新規に2店舗を出店
- 「ロイヤルホスト」では人気の「黒×黒ハンバーグ」を前面に謳ったハンバーグフェア「黒×黒ハンバーグ王国」や30年目となるカレーフェアを開催
- 新業態「カウボーイ家族(ステーキファミリーダイニング)」は7店舗を出店、計18店舗体制に

コントラクト事業

売上高 13,984百万円

- 法人からの委託等により、空港ターミナルビル、高速道路サービスエリア、大型商業施設等において、多種多様な飲食業態を展開
- 新東名高速道路に売店を2店舗出店するなど、新規に8店舗を出店
- 震災や高速道路の割引制度終了による集客のマイナス影響が薄れて売上が回復

機内食事業

売上高 3,614百万円

- アジア方面路線を中心とした国際線への搭載が引き続き堅調に推移
- 世界の航空会社への搭載実績が評価され、新規就航路線の受注を獲得

ホテル事業

売上高 8,131百万円

- 3月に、リッチモンドホテル31店舗目となる「リッチモンドホテル浅草」を開業
- 顧客からの支持を背景に、既存ホテルが高い客室稼働率を維持

食品事業

売上高 3,949百万円

- 外食事業とコントラクト事業に対する食品製造、購買、物流事業のほか、一部グループ外向け製品を製造
- ロイヤルホストとグループ外向け製品の生産が伸張

(注) ここまでに記載の売上高には、その他の営業収入を含めております。

新中期経営計画「Fly to 2014」 ～主要戦略の進捗状況報告～

新中期経営計画のスタート年である平成24年度の第2四半期決算は、計画を上回る増収増益で終了いたしました。

つきましては、上半期における主要戦略の進捗状況を以下のとおりご報告いたします。

①ロイヤルブランドの再構築

ロイヤルホスト／カウボーイ家族

【ロイヤルホスト】

ロイヤルホストならではの高い品質の商品の提供と各種料理フェアを実施しました。また、社員教育に注力したことなどにより、既存店売上前年比が100%を超える基調に変化しました。

【カウボーイ家族】

ステーキ・ハンバーグ&サラダバーの専門店として、本年3月に全国展開を開始し、現在18店舗となりました。その地域になくてはならないお店としてお客様の高い評価を獲得し、2014年には50店舗の展開を目指しています。

②成長エンジンの育成

てんや／コントラクト／カレー家族

【てんや】

季節商品の投入とテイクアウトの強化などの商品戦略の見直しにより既存店の売上が回復しました。2015年の200店舗達成に向けてフランチャイズの募集を本格的に開始しました。

【コントラクト事業】

ヘルスケア分野のモデル施設として、大阪の淀川キリスト教病院内において患者食、職員食堂、外来レストラン、コンビニエンスストアの運営を開始しました。また、高速道路パーキングエリア(PA)においても、新東名高速道路の掛川PA、藤枝PAにそれぞれ売店を出店しました。

【カレー家族】

ロイヤルホストにおける過去30年のカレーフェアで培ったノウハウを活かし、カレー専門店をアペティートカフェ表参道店内に開店しました。

③収益基盤の拡大

機内食／ホテル

【機内食事業】

アジア方面を中心とした、国際線への搭載が引き続き堅調に推移するとともに、新規就航路線における受注獲得もあり、安定した売上

推移と高い収益性を継続しています。

【ホテル事業】

本年3月に新規開業したリッチモンドホテル浅草が順調に推移し、東北地方の復興需要と合わせ、既存ホテルも高い稼働率を維持し売上が伸長しています。また、顧客満足度の更なる向上を目指します。

④時代対応業態の開発と進化

ローズベーカリー／シェーキーズ

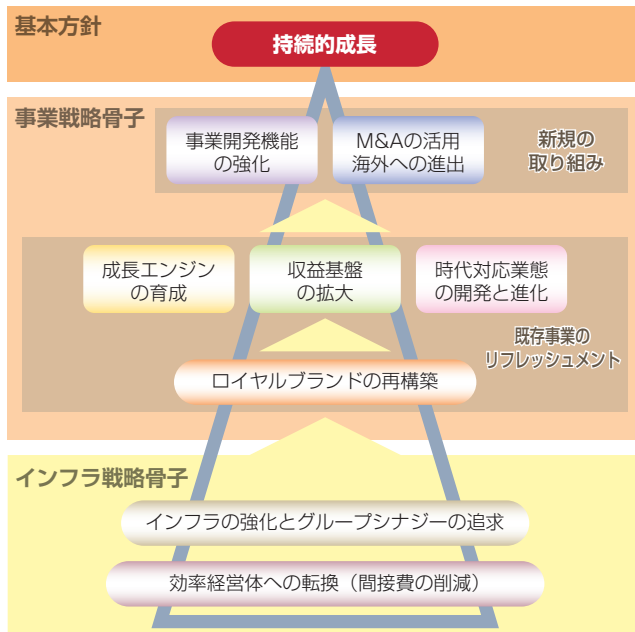
【ローズベーカリー】

英国人のオーナー、ローズ・カラリーニさんが作るオーガニックの野菜や穀物等の厳選した食材を使った料理・菓子を提供されるお店です。丸の内・吉祥寺に次いで、本年3月に開店した銀座店は好評を博しています。

【シェーキーズ】

ピザレストラン「シェーキーズ」は、立地条件とターゲットとする顧客層に対応した3番目の店舗タイプを開発しました。休止していたフランチャイズの募集を再開し、2017年には50店舗の展開を目指しています。

【基本方針と戦略骨子】



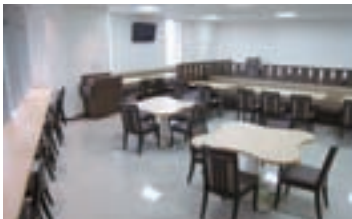
カレー家族



ロイヤルHOST株式会社は、2012年7月13日に新業態となるカレー専門店「カレー家族」の1号店をアペティートカフェ表参道店内に開店いたしました。ロイヤルHOSTでは、1983年より毎年夏のカレーフェアを開催し、「夏といえばカレー」という食文化を醸成させたといわれるなど、お客様から大変好評をいただいております。「カレー家族」は、カレーフェアを30年続けることができたことへの感謝と、カレーフェアで培ったノウハウを活かした「野菜おかず(サブジ)&洋食カレー」というロイヤルHOSTならではのテーマで展開する新しいスタイルのカレー専門店です。1号店は新業態展開のためのパイロットショップと位置付け、今後、年内に3店舗、2014年までに18店舗の出店を目指してまいります。



コントラクト事業—淀川キリスト教病院内店舗—



ロイヤルコントラクトサービス株式会社は、2012年7月16日に大阪市東淀川区の淀川キリスト教病院において、患者食、職員食堂、外来レストラン、コンビニエンスストアの運営を開始いたしました。今回、同病院で提供する患者食は、世界的医療ツーリズムに対応するため、当社グループの株式会社関西インフライトケイタリングの機内食工場のノウハウを活かし、「ハラル認証」(イスラム教が摂取を禁じている豚肉やアルコール等を使わないなど戒律に従って製造したことの証明)を受けたキッチンも併設するなど、新たな事業モデルの構築を目指しております。当社グループにおいて「成長エンジン」と位置付けているコントラクト事業では、少子高齢化社会において重要度を増すヘルスケア分野にもビジネスを拡大してまいります。

■ 四半期連結財務諸表 (要旨)

四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	前期末	当第2四半期連結会計期間末	
	H23.12.31 現在	H24.6.30 現在	
資産の部	流動資産	15,481	14,423
	固定資産	62,391	61,928
	有形固定資産	34,028	34,943
	無形固定資産	943	857
	投資その他の資産	27,418	26,127
	資産合計	77,872	76,352
負債の部	流動負債	17,832	17,225
	固定負債	20,189	19,401
	負債合計	38,021	36,627
純資産の部	株主資本	39,229	39,089
	資本金	13,676	13,676
	資本剰余金	23,708	23,708
	利益剰余金	4,569	4,428
	自己株式	△ 2,723	△ 2,723
	その他の包括利益累計額	13	65
	少数株主持分	607	571
	純資産合計	39,850	39,725
	負債・純資産合計	77,872	76,352

● ポイント解説

資産の部

総資産は、前期末に比べ1,519百万円減少しました。リース資産の増加等があった一方で、売掛金等の流動資産や店舗閉鎖等に伴う差入保証金の回収などにより減少したものです。

負債の部

負債は、前期末に比べ1,394百万円減少しました。短期借入金やリース債務の増加があった一方で、長期借入金や買掛金などの減少によるものです。

純資産の部

純資産は、配当金の支払いなどにより、前期末に比べ124百万円減少しました。なお、1株当たりの純資産額は1,015円25銭（前期末から2円30銭減少）となり、自己資本比率は51.3%（前期末から0.9ポイント上昇）となりました。

てんや フランチャイズ(FC)募集を本格開始

天井・天ぶら専門店「てんや」はこれまで直営店を中心に127店舗(うちFC2店舗)を関東地区で展開しており、100店舗を超す店舗を有する国内で唯一の天井チェーンです。

また、てんやは当社グループにおいて「成長エンジン」と位置付けており、既存店のブラッシュアップとともに、東南アジアを中心とした海外も含め、新規出店を加速してまいります。「成長エンジン」として、2015年において



200店舗を達成するために本格的なフランチャイズ(FC)募集を開始いたしました。

シェーキーズ フランチャイズ(FC)募集を再開

ピザレストラン「シェーキーズ」は、現在全国で23店舗(うちFC10店舗)を展開しております。従来のアーリーアメリカン調の「スタンダード」タイ



プを中心に、昨年9月キャナルシティ博多に、女性をターゲットとした「フレッシュ&ヘルシー」タイプを出店いたしました。また、本年10月には郊外のショッピングモールでファミリーをターゲットとした「キッズ&ファミリー」タイプを開店することで、立地条件とターゲットとする顧客層に対応する3つの店舗タイプが揃います。

今後は、これまで休止していたフランチャイズ(FC)募集を再開し、2017年に50店舗体制を目指してまいります。

四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	前第2四半期連結累計期間 H23.1.1 ▶ H23.6.30	当第2四半期連結累計期間 H24.1.1 ▶ H24.6.30
売上高	50,272	53,505
売上原価	15,629	16,790
売上総利益	34,642	36,714
その他の営業収入	972	1,010
営業総利益	35,614	37,725
販売費及び一般管理費	35,388	37,133
営業利益	226	592
営業外収益	299	405
営業外費用	287	252
経常利益	239	745
特別利益	103	90
特別損失	3,115	159
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	△ 2,772	676
法人税等	408	446
少数株主損益調整前四半期純利益又は 少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△ 3,181	229
少数株主損失(△)	△ 157	△ 15
四半期純利益又は 四半期純損失(△)	△ 3,024	245

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	前第2四半期連結累計期間 H23.1.1 ▶ H23.6.30	当第2四半期連結累計期間 H24.1.1 ▶ H24.6.30
営業活動による キャッシュ・フロー	△ 244	2,082
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 1,440	△ 1,155
財務活動による キャッシュ・フロー	175	△ 1,277
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	△ 1,510	△ 351
現金及び現金同等物の 期首残高	8,242	5,370
現金及び現金同等物の 四半期末残高	6,732	5,019

会社の概況

● 会社概要 (平成24年6月30日現在)

会 社 名	ロイヤルホールディングス株式会社 (英文名 ROYAL HOLDINGS Co., Ltd.)
設 立	昭和25年4月
資 本 金	13,676,179,700円
従 業 員 数	連結 2,347名
東 京 本 部	東京都世田谷区桜新町一丁目34番6号
本 社	福岡県福岡市博多区那珂三丁目28番5号
事 業 内 容	グループの経営を統括・管理する 純粋持株会社

● 役 員 (平成24年6月30日現在)

取締役

代表取締役社長	菊 地 唯 夫
専務取締役	高 岡 淑 雄
常務取締役	矢 崎 精 二
取 締 役	野々村 彰 人
取 締 役	黒 須 康 宏
取 締 役	木 村 公 篤
取締役相談役	富 永 真 理
社外取締役	末 吉 紀 雄

監査役

常 勤 監 査 役	浦 一 馬
常 勤 監 査 役	小 村 吾 郎
社 外 監 査 役	渋 田 一 典
社 外 監 査 役	高 橋 信 敏

株主優待制度 詳細は <http://www.royal-holdings.co.jp/ir/stockholder/>

対 象	毎年6月末および12月末現在の株主名簿に記載された 100株以上ご所有の株主の皆様。
内 容	6月末の株主様には9月中旬に、12月末の株主様には3 月下旬にそれぞれ、株式数に応じて「株主ご優待券」を ご送付申し上げます。

ご所有株式数	株主ご優待券
100株以上500株未満	年間 1,000円分 (500円×1枚×2回)
500株以上1,000株未満	年間 10,000円分 (500円×10枚×2回)
1,000株以上(一律)	年間 24,000円分 (500円×24枚×2回)

株式の情報

平成24年6月30日現在

Shareholders Information.

株式の状況

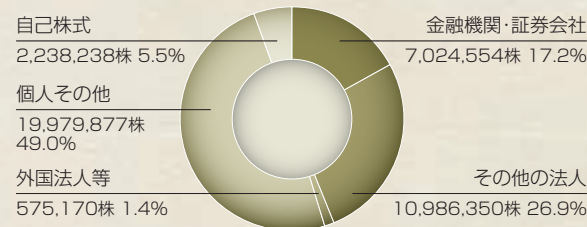
発行可能株式総数	120,000,000株
発行済株式の総数	40,804,189株
単元株式数	100株
株主数	19,985名

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
キルロイ興産株式会社	3,174	8.23
公益財団法人江頭ホスピタリティ事業振興財団	1,452	3.76
江頭憲子	1,425	3.69
株式会社ダスキン	1,400	3.63
日本生命保険相互会社	1,147	2.97
コカ・コーラウエスト株式会社	962	2.49
株式会社西日本シティ銀行	955	2.47
株式会社福岡銀行	833	2.16
ハンナン株式会社	692	1.79
株式会社三越伊勢丹	681	1.76

(注) 当社は、自己株式2,238千株を所有しております。

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月開催
基準日	定時株主総会 毎年12月31日 期末配当金 毎年12月31日
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	☎0120-176-417
公告方法	当社のホームページに掲載いたします。 (http://www.royal-holdings.co.jp/)
上場取引所	東京証券取引所第一部 福岡証券取引所

株式に関する各種手続き

住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取請求・買増請求等の各種お手続きは、口座を開設されている証券会社宛にお願いいたします。

証券会社に口座を開設されていない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。

※平成22年5月1日に株式会社テン コーポレーションとの株式交換に伴う株式の割当により当社株主となられた株主様のうち、証券会社に口座を開設されていない株主様のご連絡先は、以下のとおりです。

特別口座の口座管理機関	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	☎0120-288-324

IRサイトのご案内

アドレス <http://www.royal-holdings.co.jp/ir/>

ロイヤルホールディングス株式会社

〒154-8584 東京都世田谷区桜新町一丁目34番6号
電話：(03) 5707-8830



この冊子は、環境に優しい植物油インキを使用して印刷しています